

孀 婦 岩

同窓会会員：石橋正彦

投稿日：2018年9月20日

NHKの番組案内を見ていて、孀婦岩（そうふがん、そうふいわ）という岩があることを知りました。孀婦岩は伊豆諸島最南端の岩で、所属市町村未定のため東京都の直轄となっており、東京都総務局の出先機関である八丈支庁が管理事務を行っていて、日本の気象庁により活火山（ランク未分類）とされているそうです。



孀婦とは寡婦のこと。霜（そう）は喪に通じ、失うの意味を持つことから、孀の字は夫を失った妻、すなわち寡婦の意味を表す由。

大体女篇に霜などという字があることをこれまで知りませんでした。このことを妻と話していて、ジムに行っても、婦人会でもなんと未亡人の多いことか、孀婦会の方が名前が合うようだね、となった次第。

となると男篇に霜もあるのかな、と考え、調べてみたが、おとこやもめ、あるいはやもお（という単語がやもめに対してあるんですね）には鰥夫、寡男はあるけれど、調べた限りでは男篇に霜の字は見つかりませんでした。

生物界、どこをとっても♀が♂より強いのは常識。男篇に霜の字が無いのも当たり前、と変に納得。

言葉遊びのようですが、一つ学んだので紹介させていただきます。